

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課  
担当課長名：高松 泰

事業名	一般道道 島牧美利河線		事業区分	地方道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道島牧郡島牧村字泊 至：北海道瀬棚郡今金町字美利河			延長	32.9km	
事業概要	島牧美利河線は、島牧村から今金町に至る延長約37kmの一般道道である。このうち延長32.9kmの区間が開発道路に指定されている。本路線の整備により、農林水産品の流通支援、地域プロジェクト支援、アクセス向上に寄与する。					
S49年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)		S49年度用地着手	S49年度工事着手		
全体事業費	約410億円		事業進捗率	37%	供用済延長	12.2km
計画交通量	1,190台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 0.8 (残業) 1.7	総費用 (事業)/(残業) 135/311億円 (事業費：126/300億円) 維持管理費：8/11億円	総便益 (事業)/(残業) 234/234億円 (走行時間短縮便益：208/208億円) (走行費用減少便益：22/22億円) (交通事故減少便益：3/3億円)	基準年 平成15年		
感度分析の結果	全体事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=0.9(交通量+10%) B/C=0.7(交通量-10%) 事業費変動：B/C=0.7(事業費+10%) B/C=0.8(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=0.5(事業期間+20%) B/C=1.1(事業期間-20%)					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土・地域ネットワークの構築(現道等における交通不能区間を解消する)</li> <li>災害への備え(災害による孤立化を解消する)</li> </ul>					他4項目に該当
関係する地方公共団体等の意見	沿線自治体からは、河鹿トンネルの整備等に関する要望が出されている。また、北海道からは「事業執行上の課題及び事業進捗状況等を勘案すると、事業の見直しも止むを得ない」という意見が出されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	国道229号において防災事業の重点整備により安全性が向上している。さらに国道230号では、地域高規格道路「渡島半島横断道路」を整備中である。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	現在までに開発道路区間32.9kmのうち12.2kmを北海道へ引き継いでいる。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	多積雪地帯を通過するなど現地の状況が厳しく、残事業量が多大であることから、今後の事業期間は最短でも約20年以上を要することが見込まれる。					
施設の構造や工法の変更等	1.5車線の整備等を行っても、他の路線に比べ走行速度が低下するため便益の増加は望めず、有効なネットワーク形成とはならない。					
対応方針	見直し継続 今後は、河鹿トンネルのみを整備することとし、それ以降の整備を行わない。今後、本路線周辺の道路ネットワーク機能の充実に関する検討を進める。					
対応方針決定の理由	本路線は残事業が多く、事業の長期化が予想されることや費用対効果分析結果が低いこと等から路線全体の整備は行わないこととするが、泊川林道との接続による木材の運搬や森林管理の活用や大平山登山道への接続及び「島牧村観光推進計画」に位置づけられている「島牧村大平山自然観光センター基本計画」の支援等を図るため、完成間近な河鹿トンネルの整備を行い供用を図ることとする。					
見直し後 費用対効果 分析結果	B/C (残業) 1.1	総費用 (残業) 7億円 事業費：7億円 維持管理費：0億円	総便益 (残業) 8億円 (走行時間短縮便益：8億円) (走行費用減少便益：0億円) (交通事故減少便益：0億円)	基準年 平成15年		

# 事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。